

課題

- 従来の学校部活動では、生徒数の減少や教員数の減少に伴い、学校間で実施できる種目数に大きな差が生じていた
- 特に文化系種目は少なく、「やりたい部活」がなくなってきたことが切実な課題

対応方針

- 休日部活動の地域移行を早急に推進
- 保護者に対し、最初から「学校の部活動は廃止し、地域クラブへ移行する」という方針を明確に説明

* 活動形態の二本柱 *

スキップ型

- 従来の学校部活動にあった種目を地域へ移行（野球、吹奏楽など）
- 生徒は1年間同じ種目に取り組む

エンジョイ型

- 学校部活動にはなかった種目を幅広く用意。**未経験者を主な対象とし、毎回異なる種目を自由に選んで参加**できる（例：競技かるた、プログラミング、漫画、クッキングなど）

令和7年度の規模

- スキップ型が**7種目**、エンジョイ型が**39種目**（スポーツ18・文化芸術21）を実施

運営体制

- 佐渡市教育委員会（学校教育課・社会教育課が連携）が運営主体
- **文化コーディネーターを1名配置**し、会場予約や指導者連携、各種調整を円滑に行う

指導者

- スポーツ協会や地域の指導者に加え、文化芸術のエンジョイ型は公民館などで活動する方々が担当
- 市で採用しているスポーツ国際交流員（SEA）も配置
- 指導者には「安全管理マニュアル」などを配布し、安全意識の徹底を図る

成果 (参加状況)

- ・周知が進み参加者が大幅に増加
- ・令和7年度は、エンジョイ型の参加者が**延べ774人**に増加（令和6年度末の267人から大幅増）

成果 (生徒の満足)

- ・エンジョイ型の拡充により、生徒の満足度が向上
- ・令和6年度のアンケートでは、**34.2%の生徒が「普段できない体験ができた」と評価**（R5年度の14.0%から大幅増加）
- ・70.8%が「スキルアップにつながった」と回答

具体的な事例

- ・「クッキング」では小中学生が協力して郷土料理を調理
- ・「囲碁」では初めて触れた生徒が「楽しかった」と回答し、世代間交流の喜びも生まれている

運営上の工夫

- ・競技志向の「スキップ型」と体験志向の「エンジョイ型」の**柔軟な活動形態の提供**で参加率向上
- ・**困窮世帯（要保護・準要保護家庭）の年会費は全額免除**し、経済的な理由が参加の障壁とならないよう配慮

令和7年度の新たな展開

1. **活動日を月3回に拡大**
2. **エンジョイ型の充実**（「ボッチャ」「クッキング」を新設）
3. **エンジョイ型の対象者を小学校高学年（5・6年生）まで拡充**し、異年齢交流を促進
4. **持続可能な運営のための会費改定**
（年会費2,000円→5,000円
エンジョイ型選択時には1回500円の受益者負担を導入）

課題と改善

- ・活動場所の集約により、遠方保護者から居住地近くの会場設定要望あり
- ・指導者の継続的な確保
- ・指導者による休日の鍵の貸し出しが負担。吹奏楽では大型楽器の移動、保管の課題があったが、**学校施設の活用**で負担を軽減。

今後の展望

- ・国から示される改革実行期間（令和8～13年度）、平日活動への展開、**クラブ認定制度の構築**、**保護者負担の目安**などを踏まえ、佐渡市としても**平日も考慮した最終ゴール**を描いた次期方針の検討を開始